

令和8年度 第1回 射水市新湊博物館 運営検討委員会 会議録

- 1 開催日時
令和8年8月25日（火）午後1時30分から午後3時まで
- 2 開催場所
射水市新湊博物館 調査研究室
- 3 出席者
委 員 浅地委員、網委員、石黒委員、高山委員、森委員、
渡邊（一）委員、渡邊（美）委員
博物館 久々江博物館長、稲垣館長代理、松山学芸係長、加治主査
市教育委員会 金三津生涯学習・スポーツ課長補佐
- 4 欠席者
なし
- 5 議題及び会議結果
館内視察 意見交換
- 6 会議資料
別添のとおり
- 7 会議経過

会議の冒頭で、射水市新湊博物館運営検討委員会設置要綱の規定により、浅地委員が委員長、渡邊（一）委員が副委員長に互選された。引き続き浅地委員長が中心となり、議事を進行した。今後計画されている博物館の大規模改修について考えるために館内を視察後、各委員による意見交換が別紙のとおり行われた。

会議録確認者 委員長 浅地 豊

【別紙】

（１）建物について

- ・ワークショップをする点で、ガイダンスルームは使いにくい。ワークショップに使えるような部屋があればよい。
- ・円形の建物構造は使いにくい。
- ・様々な分野の展示に対応できる施設作りが必要である。
- ・床のマット敷きは湿度を高めることになるので、フローリングに変える検討が必要だ。
- ・エントランスホールに腰掛などの休憩スペースを充実してほしい。
- ・リニューアルの際は、ワークショップを行う場所をもっと開放感のある明るいスペースとして整備するべきである。水場を設けるべきである。
- ・建物が重々しく、圧迫感がある。衝立状の壁が多く、閉塞感があるので、リニューアル時は開放的な建物にする必要がある。
- ・測量広場（はかろっと広場）の説明を恒久的なものに整備してはどうか。

（２）照明について

- ・作品に応じた照明光量の調整が必要である。現状の照明は適切な明るさだが、展示によってはもっと明るくしてよい。
- ・美術品は白または昼白色を推奨したい。現在はタブレットで調整できる時代になった。

（３）展示について

- ・覗き込みの絵図等は、壁面でタッチパネル式展示にすれば理解が促進できるのではないかな。
- ・現在の展示内容は聞く、又は見るに限定されている。これでは子どもたちの学習への興味を引きにくい。触れるもの、ミニチュアなどがあれば子どもたちは実感できるのではないかな。
- ・射水市北部だけでなく、射水市南部も含めた市全体に及ぶ常設展示を作り上げてほしい。
- ・展示室１を射水市全体が見渡せる内容に展示を増やしてほしい。
- ・説明が大人向けであるので、その下に子ども向けの解説があるとわかりやすいのではないかな。
- ・地図の展示は、他館でも従来から導入されているような、ボタン操作などで光るタイプのものを導入してもよいのではないかな。
- ・子どもが地図を描いて、これを重ねあわせて精度を答え合わせできるようなゲーム感覚のワークコーナーを設けてはどうか。
- ・民俗面では、タッチスクリーンの地図で地名に触れれば獅子舞等の祭礼写真が表示されたら分かりやすい。
- ・バックヤードを見ることができる空間の整備や、または定期的なバックヤ-

ドツアーを開催してはどうか。不可能であればバックヤードを紹介する写真展示をしてはどうか。

- ・対象年齢を明確にした展示や体験を提供してほしい。
- ・歴史博物館として、子どもたちが分かりやすいように小学校中学年以上が理解できる漢字や言葉を選んだ解説キャプションづくりをしてほしい。
- ・射水市全域を範囲とする広域の内容を、展示に打ち出してほしい。
- ・ストーリー性のある展示が必要ではないか。
- ・展示のみならず館全体が学びの場という形にしてほしい。

(4) 収蔵庫について

- ・収蔵資料の増加や資料管理の面で、歴史資料と民俗資料の保管区分を明確にしていることについては評価できる。
- ・近現代の民具は博物館とは別の所管でよい。
- ・引き出しの敷紙等、資料保存用紙は中性紙を使用すればよい。
- ・借用品を保管する専用収蔵室が必要である。

(5) 催事について

- ・ワークショップは、体験者がやってみて、気付きを得ることが大切だ。
- ・いつでもできるワークショップがあればよい。
- ・外でできる体験・ワークショップがあればよい。
- ・いつでも行けば何か楽しめる、という博物館にしてほしい。
- ・外部団体の企画と提携を増やせばどうか。
- ・幼児向けではなかった施設だったが、近年のワークショップ充実によって低年齢層とその保護者の来場が増えていることは喜ばしい。
- ・広く意見を求め、体験をしていけばよいのではないか。
- ・毎日気軽にすることができるワークショップを提供してほしい。
- ・自然環境に触れる体験を提供してはどうか。子どもたちが紙でも植物の葉でも昔からあるものを素材として使った体験はできないか。幼児向け体験の掘り起こしをすればよい。
- ・ワークショップを館職員の力だけで運営していくことは大変困難であるため、外部の力を借りることで長く継続開催できる。
- ・2回、3回と足を運びたくなるような企画をしてほしい。

(6) 他教育機関との提携について

- ・学校と博物館の提携の形について話し合うべきである。
- ・学校現場へ、子どもたちに来てほしいというPRを強くしていくべきである。
- ・児童・生徒に、博物館ホームページを見てもらう仕組みをつくるべきである。
- ・子どもたちになぜ歴史を勉強するのか、という目的を説明してから見学や体験をさせてはどうか。ふるさとに誇りを持つ事は自己肯定感、自己効力感を高める効果がある。

- ・リニューアルに際し、子どもたちの視点を未来に向けて反映してほしい。
- ・子どもが楽しめる参加型、体験型の展示を提供してほしい。

（７）周辺施設との提携について

- ・リニューアルに伴い「道の駅まるごと射水」の利用者数が増えているので、道の駅利用者を博物館観覧者として取り込むかを考えなければならない。
- ・外から見る事ができる展示廊下で子どもたちが体験できるような仕組みを仕掛けてはどうか。常時開催できれば保護者が連れて来てくれるようになる。

（８）館運営について

- ・管理運営する職員にも管理しやすい、使いやすい設備にしなければならない。
- ・現場の目を反映でき、広く意見を吸い上げる場があれば良い。
- ・来場者数の急増策と地道な普及の両立を考えなければならないが、普及は積み重ねであり、即時効果を求めるものではない。
- ・親しみやすい地域博物館を目指すために、プロの目を入れる事も必要。また、新しい視点を入れるため、地域や、学校などともよく話し合っしてほしい。

（９）ミュージアムグッズについて

- ・展示品や収蔵品にちなむ土産物（ミュージアムグッズ）を充実させてほしい。来館した方が来館していない方に渡し、その方が来館したいと思わせるような内容が良い。

（10）リニューアルについて

- ・リニューアルを進めるにあたり、プロポーザルを検討しなければならない。
- ・重要文化財に指定されている資料もあるので、射水市・富山県を通じて文化庁、東京文化財研究所等と十分協議のうえリニューアルを進められるべきである。
- ・多くの意見を全て運営の改善に反映して行くことは難しい。優先順位を決めて、どこまでできるかを考えながら進めていく事が良い。

以上